

令和2年度 学力向上アクションプラン

1 学校教育目標

「健やかな心と体 夢に向かって
地域と学ぶ みたけの子」

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

〈主体的に物事に取り組む力〉
〈持続可能な社会を意識した行動〉
〈様々な場面に活かせるコミュニケーション能力〉

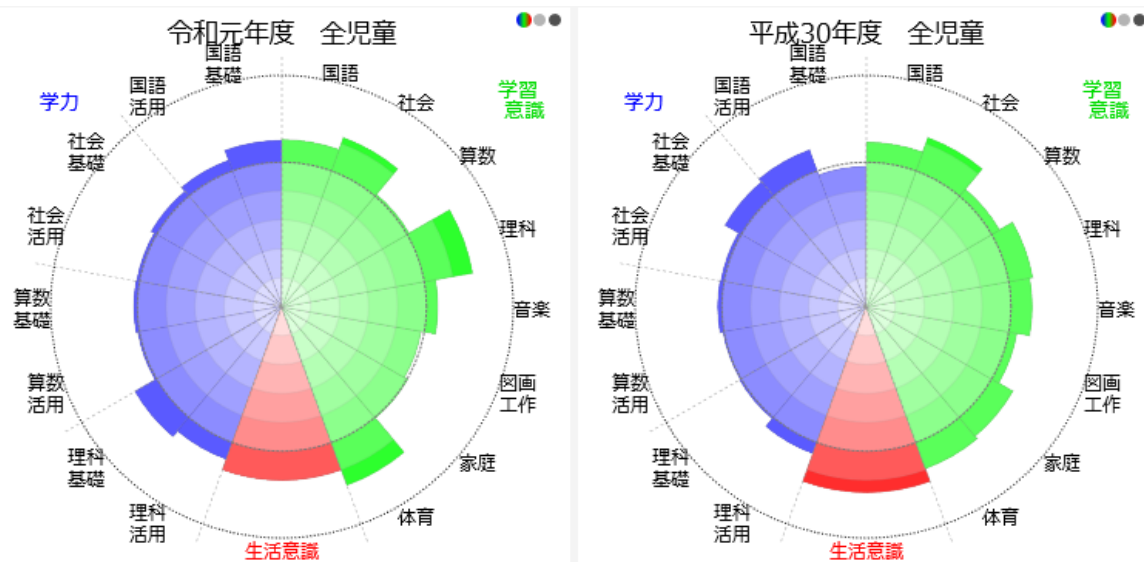
2 中期取組目標

- 「あったかい学校」「誰もが安心して豊かに生活できる学校」「子どもも大人も成長できる学校」にするために「チームワークとコミュニケーション」を大切にします。
- ・「主体的・対話的で深い学び」「協力的な地域との関わりからの学び」を実践し、子どもの可能性を広げます。
- ・教職員、児童、保護者、地域それぞれとのコミュニケーションを積極的にとり、相互の思いを共有できるようにします。
- ・健康な心と体を育むために、食や挨拶をはじめとした基本的な生活習慣への意識を高め、定着できるようにします。
- ・自尊感情を育む環境づくり、居場所づくりを推進し、子どもの規範意識、人権尊重意識が向上できるようにします。

3 学力向上に向けた重点取り組み分野・取組目標・具体的取り組み

重点取組分野		具体的取組
生きてはたらく知		①一人ひとりの実態をつかみ、基礎学習の定着を積み重ねたり学年で協働して学習方法や評価基準を明確にしたりすることで、個に応じた指導の工夫をする。
担当	学習指導部	②授業研究テーマを『ユニバーサルデザインを意識した授業づくり』とし、どの子も主体的に学べるような授業を研究し、学習意欲の向上を目指す。 ③各学年の学力向上アクションプランに基づき、児童の実態をつかみながら授業改善に努める。

4 横浜市学力学習状況調査からの実態把握



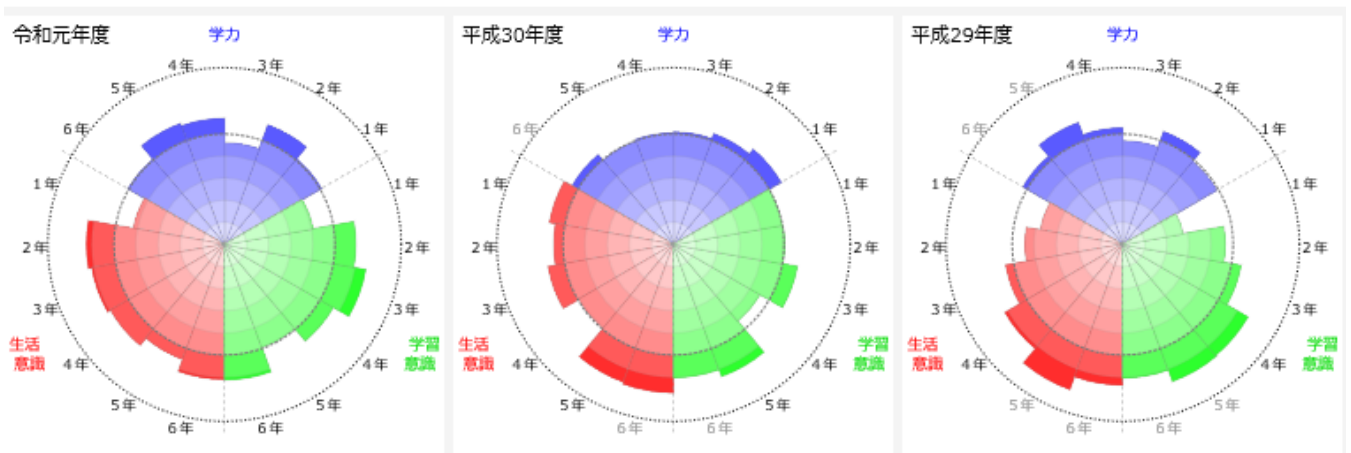
(1) 学力の概要と要因の分析

学力に関しては、国語、理科の基礎で平均を上回っており、その他は、ほぼ横浜市の平均程度である。しかし社会の基礎は、前年度に比べると低下傾向が見られる。学習意識では、ほとんどの教科で市の平均を上回っている。前年度と比較すると、理科と体育の学習意識に対する数値が上がっている。それに対して、図工や家庭科などの技能教科の学習意識は下がっている。全体的に見ると、市の平均は上回っているものの、教科によって学習意識の高さにばらつきがある。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：どの学年も基礎的な知識に伸びが見られた。読む力に関しては、どの学年も横浜市の平均を上回っている。低学年は話す・聞くが横浜市の平均を下回っているが、学年が上がるにつれてその力が高まる様子が見られた。
- 算数科：全体的には基礎的基本的な問題、活用問題ともに平均程度と言える。6年生を例にとってみると、数量関係の知識・理解が課題として見られた。
- 社会科：全体傾向として、社会科意識が高く技能の定着は平均を上回っている。地域とのつながりが深く、そのきっかけとなった社会科に対して肯定的な思いをもっている子が多い。
- 理科：全体の傾向として、技能の定着は横浜市の平均を上回っている。仮説・検証の流れの中で、一人一人が十分に関わる手立てが保証されているため、技能が高まっていると考えられる。知識・理解の定着に課題が見られた。

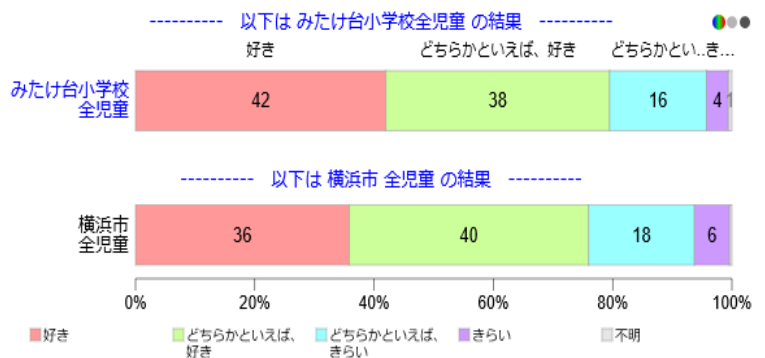
(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）



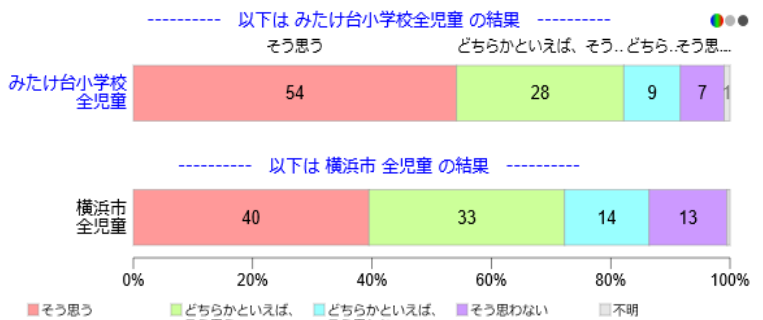
三年間の経年変化の状況からみると、学力はほとんどの学年で横浜市の平均程度、もしくは上回る結果になっている。学習意識では、低学年時に学習意識が低い傾向にあるが、中学年になって学習意識が高まる様子が見られる。中学年時に高い学習意識が見られると、学年が上がっても高い値を維持している様子が見られる。以上のことから、低学年と中学年の学習内容の系統性を意識し、分かりやすく安心して学習に取り組めたり、楽しさを味わいながら主体的に学ぶことができたりする授業づくりが求められていると考える。

全体的に見ると、「勉強は好きですか」という問いに対して8割の児童が「好き」と回答している。また、「授業は分かりやすいですか」に対して「分かる」と回答している児童の割合は横浜市の平均と同程度になっている。「授業の中で自分の考えを発表していますか」に対しては肯定的に回答している児童の割合が昨年度に比べて増え、約7割近くに達している。「自分にはよいところがある」「自分のことが好き」と回答した児童は前年度同様8～9割近くにのぼる。以上の結果から、自己肯定感を持ち、積極的に授業に参加していることがうかがえる。また、学校図書館をよく利用している児童ほど、「勉強が好き」と回答している児童が多く、読書の時間を学校生活で確保していくことが大切だと分かった。

1 勉強は、好きですか。



3 0 自分のことが好きだと思いますか。



5 令和元年度 育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○感じたことを言葉にする力 ○問題を発見する力 ○自分なりのイメージをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に使わせたい語彙をリストアップし、提示する。よりどころを作ることで、児童が自信をもって言葉に表しやすくし、自分の言葉で表現する力を育てる。 ・授業の導入を工夫し、単元を通した目標を児童と設定することで、学習に対する意欲を高め、問題場面や学習課題を理解する力を育てる。 ・課題を明確にし、自分の予想や思いをもつことで、学習の見通しをもたせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○好奇心 ○身近な事象に積極的に関わる態度 ○感じたことを言葉にする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の中から興味・関心を引き出し、生活場面と学習とを関連づけることで、自分事として捉えて学習できるよう単元の導入等での工夫を図る。 ・生活場面と学習、既習事項と新しい学習等のつながりを常に意識させ、自ら関わりをもとうとする態度を養う。 ・国語の学習を核として日常のやりとりの中で語彙を豊かにしていき、自分の感じたことを言葉で他者に伝える機会を設ける。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○伝える内容を明確にする力 ○問題を理解する力 ○身近な事象に積極的にかかわる態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを発表する場面を設定し、理由や事例などをあげながら、話の中心を意識して書いたり話したりすることができるようにする。 ・課題を理解するため、話を聞いたり文章を読んだりする際に、情報を取捨選択し、必要なことは何か分かる力を養う。 ・課題や学習の導入・活動内容などを工夫し、興味をもち、進んで取り組もうとする意欲がもてるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○他者を理解する態度・自己を理解する態度 ○事実等を正確に理解する力 ○問題を理解する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働して課題を解決する学習場面を設定し、適切なコミュニケーションをとりながら課題解決する力を養う。 ・自分の考えをまとめる際に、常に根拠となるものに向き合わせるような支援を行う。 ・課題理解のために、これまでに学習して得た情報を分析・取捨選択したり、自分たちのおかれている状況を把握したりする活動を取り入れる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○事実等を解釈し自分の考えを形成する力 ○他者を理解する態度・自己を理解する態度 ○試行錯誤する能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに対して、根拠をもって話したり書いたりする場面を計画的に設定する。また、考えをもつことや変容することに対して肯定的に捉えられるように支援を行う。 ・協働して課題を解決する学習場面を設定し、適切なコミュニケーションをとりながら課題解決する力を養う。 ・課題に対して見通しをもち、様々な方法を試しながら、よりよい解決法を見出したり、友達と考えを共有して自分の考えを磨いたりする活動を充実させる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○伝え合うことで自分の考えを深化させる力 ○問題を認識する能力 ○内省(振り返り)の習慣 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア・グループ学習、話し合い、討論会、プレゼンテーションなどの活動や、ICT機器・シンキングツールの活用を通して、自分の考えを伝え合い、深めることができるようにする。 ・学校生活や社会事象から関心のある出来事を取り上げ課題に設定することを通して、解決に向けた活動を計画的に進めることができるようにする。 ・トライ&エラーを推奨し、経験の中からの学びを大切にする。
個別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ○思いや考えを表現する力 ○約束やきまりを理解する力 ○語彙の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定や自己表出の場面を意図的に作り、個に応じた方法で自分の意思を表示する経験を積むとともに、意思表示の仕方を身に付ける。 ・具体的でわかりやすい約束やきまりを設定し、守って過ごせるようにする。また掲示するなどして、いつでも振り返ることができるようにする。 ・感情を表す語彙や日常で使う語彙などを増やし、適切なコミュニケーションをとりながら他の人と交流できるようにする。